

六甲全山縦走24ピークスハント・トレイルランニング大会の忘備録。

この半年で一気に昂まった本番だけに長文です😅

近代登山発祥の地で、六甲全山縦走路の全24山頂を踏む為に、藪を刈り払う労力をかけられたトレイルランニング初企画。

須磨浦公園から宝塚までの国立公園内で許認可の件が多くあるは言うに及ばず、この時期に初開催に漕ぎ着けられた熱意と、ご尽力に頭が下がります。

初回大会に、出走者一覧表では北海道から沖縄まで、まして四国内の他県は全て複数名が登録済み。

ところが企画主催者の出身県からは私一人?! ボイコットでもあるまいに??

これでは同志として、完走だけは果たさねば😅なんちゃって～

豪華ゲストランナー揃いの各挨拶に続いて、強豪ランナーが一般参加しているので挙手を求めている紹介に、拍手が湧きあがる和やかな開会式に続いてのカウントダウンで無事にスタート!

最後尾で出て、主催者様がやれやれ顔に変わる前、ホットな内に記念撮影😅

快晴の紅葉時季🍁に『春の海ひねもす～』の穏やかな瀬戸内海と、日曜日の都市景観を臨みながら山頂を経て行きます。

繰り出したハイカーや、そぞろ歩きからトレランかつ飛び姿まで、都市近郊らしく多彩でグループでの人出も多く、広場ではいろんなイベントで老若男女の姿が溢れています。

山上は言うに及ばず、水辺や河原にタープやベンチを広げており、焼肉やたこ焼き器からの香りの中を、腹を空かせたまま、鼻から匂いを思いっきり吸い込んで横目で抜けました。

市ヶ原、掬星台などの賑わいからも、いろんな楽しみ方で様々な市民層に親しまれていることが好印象で感じられます。

西行法師ならぬ、東行で右片側だけが日焼けしそうな陽射しは季節が戻ったよう。登り降りしながらも、稜線の寒風は強まり、最高地点へ到達する頃には、夕闇が迫ってきました。

夕陽を背に受けて安全運転に徹した巡航速度の足元も、山陰や樹林帯では暗くなりがちで、定められた16時半前と早めの🌞ライトオンは大切なポイントです。

『秋の陽は鶴瓶落とし』といわれ、今回のコース外ですが10月下旬に誘われて下見に来た際に、山上から氷を運び降ろす為に、谷合いの樹林帯を縫って日蔭とせせらぎを選んで開かれたアイスロードも、薄暗い中を降りています。

下り一方の樹林帯で膝に疲れがきかけた頃、頬が火照るくらいパツと明るくなった場所に出ました。

兵庫県の県花、野路菊が辺り一面、夕陽に映えて輝いていました。

そんなふうに、思いがけなく元気づけられる応援ほど嬉しく力付けられるものはありません。

今回も最高地点からの後半、疲れと降り基調が続き、前後と離れて寒気強まる暗闇の中で、幾度となく白と黄色の輝きが突然に照らし出され、その度に元気づけられ、励まされが繰り返されました。

先月に地元近郊の在住者で同行案内してくださり、また資料提供 & 知識付けして下さいった方々への感謝の念も甦りました。

『フードロス軽減の為にエイド食を人数分よりも絞り込んで減らす』という大会趣旨には賛同するものの、ターゲットになりかねない私に取っては新たな難関!?

ウェイトトレーニングになるくらいゴツしりと食糧も防寒着も詰め込んでのヘビーウェイトハイキング、背負ってます。

しかしながら、エイド卓上には多彩かつ、ふんだんに置かれてあり、寒気の中でのエイドスタッフの働きと活気に加えて、温め配慮まで行き届いて杞憂に過ぎず、立派な大会運営でした。

『単独行』を読み込まれた主催者が、当時における当人の冬山登山は無人の山小屋利用であり、適当な位置に小屋が無い場合には、長時間・長距離を繋げる行動力の鍛錬に歩き回った精神性にも着目したのであろうかと想いつつ、過剰に背負った膝にくる重みを嬉しくも感じながら降りました。

食べ物に関する記載が多いと感じるだけに...

宝塚の綺麗な夜景が眼下に広がり、歩を進める毎に迫り寄ってはくるのに、ゴール目前にして真っ暗な木立ちの中を潜るように山巔を探して踏む、左右に分け入って巡る体験も面白い感覚で愉しめました。

後半は一人旅で静かなナイトランに集中できましたが、ゴール到着時に豪華ゲストランナー達が並んでの出迎え光景には、逆に嬉しいビックリで疲れが癒されました。

別荘地やゴルフ場も抜けるロード区間の繋ぎもあり、変化に富んだ都市型トレランを満喫させていただくことができて感謝ひとしお、大満足です。